

二人でいることが、  
なぜ、罪になるのですか？

# 死にゆく 妻との 旅路

三浦友和 石田ゆり子

西原亜希 / 掛田誠 近童武吉 黒沼弘己 でんでん 松浦祐也  
十貫寺梅軒 田島令子 / 常田富士男

原作：清水久典「死にゆく妻との旅路」(新潮文庫刊)

脚本：山田耕大

音楽：岡本定義(COIL)

監督：塙幸成

製作：阿久根裕行 青山洋一 / エグゼクティブプロデューサー：阿久根裕行  
Co.エグゼクティブプロデューサー：半田健 / プロデューサー：朴木浩美  
アソシエイトプロデューサー：笠置高弘 梶尾星矢

音楽プロデューサー：藤野太郎(オフィスオーガスタ) / 撮影監督：高間賢治JSC

照明：上俣正道 / 録音：山方浩 / 美術：松本知恵 / 編集：藤田伸子 / 音響効果：佐藤祥子

衣裳：宮本まさ江 / ヘアメイク：木村友華 / 助監督：土岐洋介 / 制作担当：山本礼二

ラインプロデューサー：鈴木嘉弘 / 宣伝スチール：小宮山裕介

現地協力統括：和田内幸三 / 石川県コーディネート統括：西森央市

富山県コーディネート統括：水見市産業部商工観光課

推輿：石川県 金沢市 水見市 七尾市 高岡市

宣伝特別協力：関西テレビ放送 石川テレビ放送 / 助成：文化芸術振興費補助金

製作：「死にゆく妻との旅路」製作委員会

(イメージフィールド / 青山洋一 / めいばあず / ミノル・プランニング) コーポレーション / テアトル・ド・ポッシュ

製作プロダクション：イメージフィールド / 配給：ゴーシネマ / 宣伝：集舎 ©2011「死にゆく妻との旅路」製作委員会

www.tabiji-movie.jp

1999年12月初老の男が逮捕された。罪状は保護責任者遺棄致死。  
272日の旅、走行距離6,000km。壮絶なる愛の実話。

1999年12月。

雪舞う音さえ聞こえるほどの静けさのなか、

男がひとり、妻を葬<sup>おく</sup>った。

272日、6,000km——

これは、

とある夫婦の壮絶な愛の記録である。

高度成長期、縫製ひと筋に生きてきた男は小さな工場を経営し、充実した日々を送っていた。が、中国製の安価な製品の流入が容赦なく経営を圧迫する。長引く不況に、膨れ上がる借金。万策尽きた時、男は妻の癌を知る。「これからは名前と呼んでほしい」と呟く妻。なげなしの50万を手にはワゴン車に乗り込み、ふたりの最後で最初の旅がはじまった。

本作は、1999年に実際に起きた保護責任者遺棄致死事件の当事者である清水久典氏による手記の映画化である。事件から約1年後、月刊誌「新潮45」に2号にわたって掲載され、後に文庫化もされたこの手記は、殆ど宣伝もなしに口コミだけで15万部を売り上げた。

——事件の裏には、報道されなかった夫婦の深い愛の物語があった。

この生き方が間違っていたとは言えないし、正しいとも言えない。

——三浦友和

こんなにも人を愛することが出来るなんて、素晴らしいと思いました。

——石田ゆり子

多額の借金を負い、逃げるように故郷を飛び出して職探しを続ける夫役に、三浦友和。夫を“オッサン”と恋い慕い、強引について来る11歳年下の妻・ひとみ役に石田ゆり子。2人はともに脚本に惚れ込んで出演を即決し、三浦は無精髭を生やし、石田は体重を落とすなどして撮影に臨み、9カ月の車中に泉のように湧き上がる夫婦愛を、繊細かつ渾身の演技で謳い上げる。

生きていく限り、人は、大切な者を失い続ける。その時、人は、大切な者に何をしてやれるのか。事件からまる10年。とある「極めて普通の市井の人の、愚かしいほどに純粹な選択」(塙幸成監督)が今、静かに静かに語り出される。

# 旅路 妻との死にゆく

三浦友和 石田ゆり子

西原亜希 / 掛田誠 近童武吉 黒沼弘己 でんでん 松浦祐也

十貫寺梅軒 田島令子 / 常田富士男

原作：清水久典「死にゆく妻との旅路」(新潮文庫刊) / 脚本：山田耕大

音楽：岡本定義 (COIL) / 監督：塙幸成

推薦：石川県 金沢市 氷見市 七尾市 高岡市

宣伝特別協力：関西テレビ放送 石川テレビ放送 / 助成：愛文化芸術振興費補助金

製作：「死にゆく妻との旅路」製作委員会

(イメージフィールド / 青山洋一 / めいふうず / ミナル・プランニング / コーポレーション / テアトル・ド・ポッシュ)

製作プロダクション：イメージフィールド / 配給：ゴー・シネマ  宣伝：樂舎

2011年 / 日本映画 / カラー / シネマスコープ / 113分 / DTSステレオ

©2011「死にゆく妻との旅路」製作委員会         www.tabiji-movie.jp

“あなたに、言っておきたいこと。”

「いつでも逢う事が出来るよ、ずっとひとみによって生かされているよ、有難う頑張るよ」

(試写観賞後、原作者・清水久典氏から、亡き妻・ひとみさんに)

あなたが、大切な人に伝えておきたいことを手紙にしたためて下さい。詳細は公式HPにて。▶www.tabiji-movie.jp

